

問1 壬申の乱で大友皇子と皇位を争った、天智天皇の弟は誰？

1. 中大兄皇子 2. 大友皇子 3. 聖徳太子 4. 大海人皇子

問2 白村江の戦いのあと、九州の防衛や外交の拠点として置かれた役所を何という？

1. 平城京 2. 平泉 3. 大宰府 4. 平安京

問3 白村江の戦いのあと、日本に亡命してきた人々など、大陸から高い技術をもたらした人々を何という？

1. 地頭 2. 御家人 3. 渡来人 4. 守護

問4 十七条憲法において、政治の指針として取り入れられた、インドで生まれ朝鮮半島を経由して伝わった宗教は何？

1. 道教 2. 仏教 3. 儒教 4. 神道

問5 奈良県の法隆寺などが該当する、飛鳥時代に日本で発展した現存する最古のものは何？

1. 鉄筋コンクリート建築物 2. 木造建築物 3. レンガ造建築物 4. 石造建築物

問6 天智天皇が全国的な統治を強化するために初めて作成させた、国民の名前や本籍を記録した台帳を何という？

1. 戸籍 2. 公地公民 3. 租庸調 4. 班田収授法

問7 中大兄皇子らが中心となり、豪族が支配する政治を改め、天皇中心の国家を目指した政治改革を何という？

1. 応仁の乱 2. 壬申の乱 3. 承久の乱 4. 大化の改新

問8 天智天皇の死後、大友皇子と大海人皇子の間で跡継ぎをめぐる起こった大規模な内乱を何という？

1. 壬申の乱 2. 元寇 3. 承久の乱 4. 白村江の戦い

問9 604年に十七条憲法を制定し、役人としての心構えや道徳を説いた人物は誰？

1. 中大兄皇子 2. 天武天皇 3. 聖徳太子 4. 藤原鎌足

問10 飛鳥時代に、推古天皇の摂政として仏教を広め、法隆寺などを建立した人物は誰？

1. 聖徳太子 2. 天武天皇 3. 推古天皇 4. 中大兄皇子

問11 豪族中心の政治から脱却し、天皇が権力を集中させる国家体制を何という？

1. 氏姓制度 2. 中央集権 3. 封建制度 4. 地方分権

問12 672年に天智天皇の死後、後継をめぐる起きた内乱を何という？

1. 応仁の乱 2. 承久の乱 3. 元弘の乱 4. 壬申の乱

問13 推古天皇が才能や功績によって役人を登用するために定めた制度を何という？

1. 大宝律令 2. 冠位十二階 3. 班田収授法 4. 十七条の憲法

問14 聖徳太子が、家柄に関係なく才能や功績によって役人を登用するために定めた制度を何という？

1. 冠位十二階 2. 御成敗式目 3. 十七条の憲法 4. 大宝律令

問15 聖徳太子が制定した憲法において、仏教の尊重とともに取り入れられた教えを何という？

1. 道教 2. 仏教 3. 神道 4. 儒教

問16 天皇に権力を集中させ、全国を統一的に支配する国づくりを目指す体制を何という？

1. 連合国家 2. 封建国家 3. 都市国家 4. 中央集権国家

答え合わせ・解説

問1	答え 4 大海人皇子	大海人皇子は672年の壬申の乱において、地方豪族の協力を得て大友皇子を倒しました。この勝利により、古代日本において天皇の権威を確立する重要な役割を果たしました。
問2	答え 3 大宰府	大宰府は、九州地方（特に博多周辺）を管轄する行政機関です。軍事防衛だけでなく、外国との外交交渉を行う窓口としての役割も持ちました。周囲には「水城」という土木施設を築き、守りを固めたとされています。
問3	答え 3 渡来人	渡来人たちは、土木建築、製鉄、機織り、漢字や儒教などの学問といった、当時としては極めて高度な技術や知識を日本に伝えました。特に白村江の戦いの後の防衛施設建設や、寺院の建立には彼らの技術が不可欠でした。
問4	答え 2 仏教	仏教は神道と共存しながら急速に広まり、特に聖徳太子がその普及に努めました。法隆寺などの寺院が建立され、仏像や彫刻などの仏教芸術も発展しました。十七条憲法でも、仏教を篤く敬うことが説かれています。
問5	答え 2 木造建築物	法隆寺の金堂や五重塔などの西院伽藍は、現存する世界最古の木造建築物です。当時の優れた技術を示しており、エンタシス（柱の中央が膨らむ技法）などの特徴が見られます。
問6	答え 1 戸籍	天智天皇が作成させた戸籍（庚午年籍）は、日本で初めて全国的に行われたものです。これにより、誰がどこに住んでいて、どのくらいの労働力があるのかを国が管理できるようになりました。これにより、徴兵や税の徴収がスムーズに行える体制が整えられました。
問7	答え 4 大化の改新	645年、中大兄皇子や中臣鎌足らは、強大な権力を持っていた蘇我入鹿を倒し、天皇中心の国づくりを目指す「大化の改新」を開始しました。彼らは「公地公民」を掲げ、土地や民を豪族の手から国家の管理下に移しました。また、税制の整備や中央集権的な統治を目指す制度の導入を行いました。
問8	答え 1 壬申の乱	672年に始まったこの争いは「壬申の乱」と呼ばれ、地方の豪族や兵を味方につけた大海人皇子が勝利しました。勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、これまでの豪族中心の政治から、天皇に権力が集中する政治へと大きく転換しました。
問9	答え 3 聖徳太子	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を主導しました。官位十二階を定めて能力に応じた登用を促したほか、604年には十七条憲法を制定して役人の守るべき心得を示しました。これにより天皇への服従や、仏教・儒教の尊重を求めています。
問10	答え 1 聖徳太子	聖徳太子は、推古天皇の摂政として、冠位十二階や十七条の憲法を制定し、能力重視の政治や天皇を敬う思想を広めました。また、仏教を深く信仰し、法隆寺や四天王寺を建立するなど、宗教面からも国の平和を祈願しました。
問11	答え 2 中央集権	飛鳥時代から大化の改新を経て目指されたのが「中央集権」です。地方の豪族から土地や民を公のものとする「公地公民」を掲げ、中央政府が全国を一括して管理するシステムを構築しました。
問12	答え 4 壬申の乱	672年に勃発したこの内乱は「壬申の乱」と呼ばれます。地方の豪族を味方につけた大海人皇子側が勝利し、大友皇子は敗北して自害しました。これは、当時の有力な皇族同士による最大規模の内乱となりました。
問13	答え 2 冠位十二階	603年に制定されました。役人に位を表す冠を与え、その色は徳・仁・礼・信・義・智の儒教的な道徳に基づく階層を示しました。これにより、有力豪族だけでなく、能力のある人物を政治に参加させる道が開かれました。
問14	答え 1 冠位十二階	冠位十二階は、役人に能力や功績に応じて12段階の位を与え、それぞれ色分けされた冠を身につけさせる制度です。これにより、家柄にとらわれない公正な人事を行い、天皇を中心とした国家運営を支える官僚組織を目指しました。
問15	答え 4 儒教	儒教は、孔子を祖とする中国の思想で、礼儀や孝行、そして君臣関係といった秩序を何よりも重んじます。聖徳太子が制定した十七条の憲法では、仏教を尊ぶ姿勢とともに、この儒教的な上下関係の秩序を取り入れることで、役人たちが天皇に仕えるべき規範を示しました。
問16	答え 4 中央集権国家	中央集権国家とは、天皇や朝廷が中心となって、全国の土地や人民を管理し、法律に基づいて統治を行う体制のことです。冠位十二階や公地公民といった制度は、まさにこの体制を実現するための手段でした。